

# 米倉教公の週間為替市場見通し

5/16 日週号

ドル/円予想レンジ 107.00 - 110.00 円

## 『25日移動平均線の上抜け/下抜けに注目！』

### ■前週の市場動向：小幅に上昇

前週のドル/円の週足では、上ヒゲ陽線引けとなった。週明け9日は日欧の株価が堅調推移したことで一時108.60円まで上昇した。翌10日は『ゴト一日』で仲値の向けたドル買いが強まったほか、麻生財務相が『為替介入の用意がある』との発言がドル/円のサポートとなった。一転11日は日本株の下落からリスク回避の円買いが強まり、前日のドルの上げ分を解消した。12日は日本株が下落するにつれて108.19円まで下落したが、一転日本株が買い戻されるとドル買いが強まり109.42円まで上昇した。ただ、米新規失業保険申請件数が市場予想を上回ったことで、ドル売りが強まる場面もあったが米国株が堅調推移したことで下値は堅かった。13日は強い米経済指標を受けてドル買いが強まり一時109.49円まで上昇した。しかし、米国株が大幅下落し、米長期金利が低下したことから一転ドル売りが強まり108.60円付近まで押し戻された。前週は108.20-109.50円のレンジ相場となった。

### ■今週の注目点：日本1-3月期GDPに注目

今週の注目点は18日の日本1-3月期国内総生産（GDP）確報値となる。昨年10-12月期のマイナス成長からプラス成長に回復が予想されている。ただ、予想より悪化した場合は、政府による財政出動や日銀による追加金融緩和といった経済対策への期待感が高まる。また、18日FOMC議事録では、FOMCメンバーが米経済に対してどのような見方をしているかも注目される。19日に5月3日のドル安が止まる切っ掛けとなったダドリー米NY連銀総裁の記者会見が予定されている。3日に金融政策についてハト派と見られている同総裁が、年2回の利上げを再び示唆したことでドル買いにつながった。一方、20-21日に仙台で、伊勢志摩で開催される主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）に先駆けその準備となるG7財務相・中央銀行総裁会議が開催される。会合までは『議長国として、円高阻止の為替介入は行えない』という思惑があり、欧米市場での円買い仕掛けには注意が必要だ。



### ★先週の気になる出来事

世界的に過激な発言をする政治家が、国民から支持され選挙でも勝利しているように思える。先行きを考えると、非常に怖い気がする。これは、世界的に貧富の差が大きくなり過ぎたことが原因なのだろうか？そして、世界は何処に向かおうとしているのだろうか？日本では農民から天下を取った豊臣秀吉が有名であるが、混乱の世界にこそ下剋上が達成できるのであれば、そういう方向に向かっていくのかもしれない。金価格が底堅く推移しているのも不気味だ。

### ■テクニカル的な見解

5月10日付のシカゴIMM投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+61,521から+59,047へと円の買い持ち高は減少した。4日以降の円安進行でドル売りの持ち高の手仕舞につながった。ドル/円は5月10日以降、25日移動平均線（青：15日現在108.778円）を挟んだ値動きとなっている。確り25日線を上抜けできると、下値支持ラインとなる一方で、下抜けしてしまうと上値抵抗ラインとなる転換点となっている。また、5日移動平均線（赤：108.718円）に位置しており、ゴールデンクロスするかも注目される。また、日銀ショックが起きた4月28日の高値111.88円と5月3日の安値105.51円を結んだフィボナッチの61.8%戻し109.45円が上値抵抗ラインとなっている。上抜け出来ると白銀比率の70.7%戻し110.01円、76.4%戻し110.38円が上値の節目となる。一方で、下値は38.2%戻し107.94円、23.6%戻し107.01円が下値節目となる。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

#### 【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

#### 【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

#### 【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

#### 【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

#### 【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

#### 【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

#### 【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

#### 【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。